



『憐れみ』とは、ギリシャ語ではスプラングニゾマイという言葉ですが、それは目の前の人の苦しみを見て、自分の腸が揺さぶられるという、深い共感が表わされています。イエス様は、そのような憐れみを抱かれ、そして目の前で苦しむ人に手を差し延べて、救いを与

えられるのですが、私たちの誰もがイエス様と同じようには行えません。では、『行って、あなたも同じようにしなさい』とは、私たちが神様の憐れみを模範として、何が求められているのでしょうか。

今年夏、私は神戸教区室根プロジェクトに参加し、東日本大震災の被災地域に行きボランティア活動と共に被災地域の視察もしました。この時、陸前高田市へ行ったのですが、私自身、ここは二度目の視察で、一度目は4月初めに来ています。でもその時から約4ヶ月経った今でも、確かに瓦礫が撤去され、津波によって潰された車が町の一角に積み上げられていたものの、町の状況は殆ど変わりなく、未だに町の人々は帰っ

て来れない様子でした。残っている瓦礫を撤去する重機が動く音の他は、何も聞こえなかったのです。私たち参加者は、同市の市役所付近に車を止め、その付近を歩いてその被害を目の当たりにしていたのですが、全員の目が市役所の玄関部分に留まりました。幾つもの花束などが置かれ、その前の大きな柱に「搜索終了」という張り紙が貼られていたのですが、その張り紙を見た時、私たちは何とも言えないほどの悲しみに溢れ、そして何かに突き動かされるように手を合わせ、しばらくその場で祈りの時を持ったのでした。

福音書の中には、イエス様が様々な境遇に苦しみ、悲しんでいる人々を憐れんで受け入れ、助ける方として描かれています。そのイエス様の憐れみは、譬え話でも用いられており、例えば『善いサマリア人』の

『行って、あなたも同じようにしなさい』とイエス様は教えておられます。

この祈りを中心として、今回プロジェクト参加者によって、写真の洗浄や、漁網の整備、また被災された方の引越などの様々なボランティア活動が行われているのです。だからこそ、たとえ現地に

今年夏、私は神戸教区室根プロジェクトに参加し、東日本大震災の被災地域に行きボランティア活動と共に被災地域の視察もしました。この時、陸前高田市へ行ったのですが、私自身、ここは二度目の視察で、一度目は4月初めに来ています。でもその時から約4ヶ月経った今でも、確かに瓦礫が撤去され、津波によって潰された車が町の一角に積み上げられていたものの、町の状況は殆ど変わりなく、未だに町の人々は帰っ

て来れない様子でした。残っている瓦礫を撤去する重機が動く音の他は、何も聞こえなかったのです。私たち参加者は、同市の市役所付近に車を止め、その付近を歩いてその被害を目の当たりにしていたのですが、全員の目が市役所の玄関部分に留まりました。幾つもの花束などが置かれ、その前の大きな柱に「搜索終了」という張り紙が貼られていたのですが、その張り紙を見た時、私たちは何とも言えないほどの悲しみに溢れ、そして何かに突き動かされるように手を合わせ、しばらくその場で祈りの時を持ったのでした。

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

主よ、憐れみを
お与えください

司祭 ヨシユア 長田 吉史

2011年
10月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我 秀一

印刷所
文明堂印刷所

現在、宮古市では、復興に向けて新しい何かが作られている金槌の音が聞こえています。まさにその音は、世界中の人々が願っていることであり、それこそが憐れみ深い神様の働きであると、私は信じています。

この音が、これからも東日本大震災の被災地域で広がっていくように、また先月起きた台風15号の被災地域でも同じように広がっていくように、深い憐れみの中で共に祈り、共に神様の憐れみを願っていききたいものであります。

(広島復活教会副牧師・
呉信愛教会管理牧師)

第48回神戸教区中高生大会報告

8月16日(火)～19日(金)、徳島県の『牟岐少年自然の家』で、第48回中高生大会が開催されました。

今回の大会長は徳島インマヌエル教会の瀬山 匠くんで、中高生約40名、キャンプ・サーバーと教役者約30人、総勢約70名が集いました。

今大会のテーマは『つながり』で、講師として迎えた井上進次司祭(プール学院チャプレン、尼崎聖ステパノ教会副牧師)は、ご自身の鉄道会社での勤務経験や、その間に奉仕していた日曜学校教師などの経験、そして

「わたしはぶどうの木」(ヨハネ15章5節)という御言葉から、様々な『つながり』について語られました。

今回は、東日本大震災の被害をうけた東北教区から2名の中高生と聖職候補生を招待しました。中高生大会チャプレンの長田吉史司祭は、今回の中高生大会を振り返って、このように言っています。

「今年のテーマは、大会長が『中高生同士のつながりだけではなく、キャンプ・サーバーや教役者とのつながり、そして多



くの人とのつながりをもってほしい」ということから『つながり』に決められました。そして、そのような思いは大会を通して実を結びました。その実のしるしは幾つもある中で、特に東北教区からご招待した二人の中高生が、最終日に『来年もまた来ます』と言っていたことには、きりと示されていたと感じています。

また今回、大会長を務めた瀬山 匠くんは大会を振り返って、次のように言っています。

「今回の中高生大会は、一人では決してできないことばかり

でした。僕はそういったことを多くの人達とするのに慣れていなかったのですが、この中高生大会の大会長はかなり無茶な立場でした。けれども、大会を支えてくれる人達とのつながりが、大会を成功に導いてくれたのだと感じています。

小林和真くん(広島復活教会、次回大会長)、来年は僕と同じ受験生だけれど、みんながいるから、受験も大会も必ず成功させましょう！」

大会中は天候にも恵まれ、大きな事故や問題もなく、感謝のうちに、参加者はつながりを保ちつつ、帰路につきました。

(中原 記)

アタナシウス 佐々木康一郎 聖職候補生

この度は神戸教区中高生大会に参加する機会を与えて頂き、参加した仙台基督教会の光山貴仁君、光山泰史君にとって、生涯忘れない素敵な出会いと経験を与えてくださった事を心から感謝いたします。2人にとって、多くの若者達との出会い、そして語らいの機会は、生涯にわたる宝物になったのではと感じております。

仙台から空港へ向かう二人は、口数も少なく、私とも初対面であったという理由だけではなく、

不安と心配で一杯だったのでしょ

う。それとは対照的に、仙台へ向かう帰りの車・飛行機の中では、「誰々ちゃんとかんな事をして、あんな話をして…」「来年も絶対来るんだ！」と目を輝かせ、いつまでも、いつまでも中高生大会での話をしています。

時折「今、みんな何処にいるのかなあ…」と寂しそうに言う二人の言葉からも、今回の中高生大会の出来事・出会いの一つひとつがかけがえのないものになっていて、離れてはいるけれども、「つながり」を感じ取っているのでは、と思います。

震災後、私たちの生活は以前とは全く違うものになってしまいました。地震や津波による被害、そして放射能という未知への恐怖。直接的にも間接的にも東北教区だけではなく、日本、世界のすべての人たちに影響を与えていると思います。この度私が引率した光山兄弟も、そして私自身も、様々な思いで3月11日以降を過ごしてきました。

まだまだ、多くの地域で困難な状況にある人が大勢います。時には、遅々として進まないように思える状況に、怒りに似た感情も覚える事もあります。また、頑張ろうと思えば思うほど、諦めそうになる事もあります。

しかし、その状況の中で私に与えられた気付きがある様に思います。それは、すべての人との

『つながり』です。

今までに、これ程の教区間の協働があったでしょうか。日本全体、そして世界を含めた取り組みがあったでしょうか。私はそこに新しい『甦り』と溢れんばかりの『生命の息吹き』を感じています。自分一人ではない。絶えず出会う人々との『つながり』を覚えながら、共に生き、担い合いながら歩んでいく。そしていのちの源である主と共に。

中高生大会での出会い、そして感じた生命の躍動感、人とのつながり、そしてその尊さと思議さは、まさに『神秘』でありました。

遠く離れた東北の地から、ここ青森県弘前から、日本聖公会神戸教区の皆さまを覚え、そして神戸教区中高生大会への主の更なる見守りと祝福をお祈りしております。(弘前昇天教会勤務)



東北教区仙台基督教会から参加された光山貴仁君、光山泰史君、佐々木聖職候補生

公 示

日本聖公会神戸教区第79(定期)教区会を
招集します。

2011年9月21日

日本聖公会神戸教区
教区会議長

主教 アンデレ 中村 豊

記

日 時：2011年11月23日(水)

午前8時から午後5時まで

場 所：神戸聖ミカエル大聖堂

書記を下記のように任命します。

司祭 シモン 原田 佳城

司祭 ペテロ 中原 康貴

11月の教区関係教役者

逝去記念聖餐式

日時 2011年11月10日(木) 午前10:30

場所 神戸聖ミカエル大聖堂

司式 主教 中村 豊

説教 司祭 林 和広

11月の記念逝去教役者

1日	司 祭	レイモンド C. クリストファー
3日	司 祭	山本 早太
4日	司 祭	パウロ 山辺 久吉
8日	宣教師	ヴァイオレット ハイド
9日	司 祭	アンデレ 児玉 正
13日	司 祭	モーセ 木俣 茂世
17日	伝道師	ルデア 内田 歌子
17日	司 祭	ウイリアム H. ハンコック
18日	伝道師	チップラ 末好 信子
19日	司 祭	ヨハネ 側垣 正己
20日	司 祭	パウロ 秋田 哲三
22日	伝道師	塩原 以満
28日	宣教師	ジャネット マッキー
30日	宣教師	エイミ C. ボサンケット

逝去年月日不明の方にも祈ります

10月23日(日) 社会事業の日

この主日には日本聖公会の青年活動のため
に祈りを献げ、当日の信施金は管区を通
して、同活動のためにお献げください。

鳩だより

《敬称略》

ご 逝 去

8月28日(日)

土居 春(95歳)

広島復活教会

教 籍 移 動

8月18日(木)

マルタ 松浦 奈子

北海道教区

札幌キリスト教会より

神戸聖ヨハネ教会へ

広島伝道区

◎合同日曜学校夏キャンプ

7月25日(月)〜26日(火)、

山口県徳地の青少年自然の家
で、広島伝道区の日曜学校夏

◎広島復活教会

8月28日(日)、ホームレ



山口県徳地青少年自然の家での夏キャンプ

キャンプ2021が開かれました。
広島県と山口県から、41名
の参加者が集合しました。

大聖堂地階ホール 改修工事完了

8月から、神戸聖ミカエル大
聖堂地階ホールの改修が行われ
ていましたが、9月16日(金)
完了しました。

改修内容は、地階和室を撤去
し、全体を一つのホールとした
上で、使用目的に応じてパーテ
ーションで区切れるようにするも
のです。総工費は神戸聖ミカエ



和室撤去後の工事中の状況。パーテーションを
開ければホールを広く使えます。

スの人たちへの炊き出しを行っ
た。今回は二年になるため
「カツカレー」を提供した。
来られたホームレスの方、約
65名、ボランティアの方、約
20名の大会事会となった。

ル教会が負担し、約9,000,000
円でした。大聖堂の機能がさら
に充実してきたことを感謝した
と思います。

台風12号被災地への 緊急支援報告

教区主事

ジョージ 大東 正人

9月3日(土)、西日本を横断
した台風12号は近畿及び日本各
地に多くの爪痕を残しましたが、
京都教区では、ことに和歌山県
新宮に大きな被害がでました。
京都教区主教の緊急支援要請に
応えて、9月7日(水)、中原康
貴司祭と私で、飲料水搬入を行
いました。また8日(木)〜23日
(金)の2週間、新宮聖公会を宿
泊所としてボランティア募集が
あり、当教区からは、上原信幸
司祭、林 和広司祭、長田吉史
司祭、池澤隆輝聖職候補生、芳
我頭司兄が現地ボランティア
活動を行いました。日を追って、
深刻な被災状況が判明してきて
います。東北震災ともに、台
風による犠牲者・被災者のため
にお祈り下さい。



台風12号被害へのボランティア活動